

恵みと真理のニュース



2014年8月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証] 母の遺言によって熱心に福音を伝えながら 神様の栄光のため生きる恵みを与えてくださる神様に感謝します

私は全羅北道の田舎で偶像崇拜をする家庭で生まれ育ちました。家の代々に熱心に仏教を信じて特に母がお寺に通いました。親が結婚して8年ぶりに私を産んだ理由は仏様に祈ったおかげだと母は思っていました。また、叔母さんも占いだったそうです。しかし、神様の恵みで子供のごろから母についてお寺に行ったり偶像崇拜する事が嫌いでした。代わりに食べ物と見物があまりないそのごろ親の密かに教会に行っておやつをもらったり、みんなと賛美を捧げるのが楽しかったですが、熱心に教会には通わなかったから以後、イエス様に対する信仰がなく無駄に生活しました。全ての家族がソウルに引越して暮らしているとき1980年に不信家庭で生まれ育った旦那に出会い結婚しました。生活のため私も新婚の時から熱心に職場に通い忙しい生活をしました。結婚して3年になった頃、急に母が“食道癌の末期”判定と手術もできないくらい遅いだと医師から言われました。日々苦しみの中で何の希望もなく生きた母は隣りの家の人に導かれ教会に通うようになり信仰生活を始めました。神様に礼拝を捧げ委ねる生活を耐えられない癌の痛みを我慢できるほど健康が回復しました。神様の恵みでした。しかし、健康を回復してから母は再びイエス様を信じない人々と交わって以前の生活に戻りました。すると、健康がまた悪化されました。もう水も飲めなくなり福水がたまってしまう息苦しくなりました。ついに神様のところ教会に戻って来ました。その頃、六人の娘の中で長女であった私は母を介護するためクンポにある母の家に引越して一緒に住み始めました。

母の家の家主に伝道され恵みと真理教会に出席するようになりました。愛が多い神様は哀れんでくださり私を神様の子供にしてくださいました。私は真心をこめて母を介護しながら熱心に教会に通いました。礼拝を参席する時には当会長牧師の説教に大きく恵まれました。救いの確信を持つようになり神様が下さる神霊な慰めと平安を与え天国を望みながら神様に感謝しました。母の死生を主に委ね平安な心で生活しました。そうしながら症状も良くなりました。ある日、母は普通の日と違って愛の目で私をずっと眺めながら自分が一番大事にした教会に行くたびにかけたかばんを手でさしながらこのような話をしました。“これからこのかばんを持って多くの人々に伝道しなさい。あなたは神様の事を頑張らなければならないのよ。もう神様は私を呼んでいるようだね。どこが早く神様を信じなかったことや神様を熱心に仕えなかったことが後悔になるね。”この話をした後で六人の子供を呼びイエス様を信じ仕えるように何度も頼みました。そして1986年天国に召されました。私に熱心に神様を信じ仕えるように頼んだ母は最後の瞬間にも苦勞を忘れるように賛美歌を歌ってほしいと言った姿が今にも目に浮びます。母に永遠な命を下され母を通して信仰の遺産を譲った神様、そして母のため教区長や区域長達や聖徒達と与えてくださった多くの愛と祈りを考えると神様と教会に限りなく感謝します。神様の恵みの中で葬式を終え、神様に感謝祈りをする時に心の中には清い願と熱情を与えられました。神様に忠誠した主の事だけ力を入れながら生きる事を決心しました。

それで、通っていた職場をすぐ辞めて遺言の通りに母からもらったかばんの中に恵みと真理ニュースを入れて出会う人々を熱心に伝道しました。こんな私に教会から区域長の職分を任せられ恐れるが一方嬉しくて感謝する心で職分を担え切に祈りました。“神様、私に御言葉の知恵と能力を下され熱いイエス様の愛を与えて下さり伝道して区域を導く時に足りないところがないようにしてください。区域礼拝を捧げる時に怠けなく誠実に主と教会を仕えるように助けてください。聖霊に満たされ強く大胆な信仰で主の事をするようにしてください。祈りし使命を与えた神様ときことに権能を与え伝道の門を開いてくださいました。折が良くても悪くても福音伝道を力を入れ区域長の職分を担えられ奉仕したのが約25年になりました。相変わらず主の前で足りなく弱いですが、天国で母をあうなら恥ずかしくなく喜びながら出会えるよう安心できます。今まで主を相変わらず愛し導いてくださった神様に感謝を捧げます。互いに信仰を持って伝道と教会の目標を成し遂げる事に祈り協力する私達の教区の様々な区域長達にも感謝を捧げます。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。(マタイの福音書6章33、34)言葉の通り神様の栄光のため生きるように努力をする神様にの愛と恵みの中で全ての家族がイエス様を信じて神様の愛と恵みのなかでいるようにして下しました。信実な神様を賛美します。ハレルヤ！私も子孫に信仰の元になる母でおばあさんになるため主を畏れもつと愛し祈りして献身する事を決心します。全ての栄光を神様に捧げます。



[信仰コラム] いつも喜んだと

“いつも喜んでず…これはキリストの中で君たちに向けた神様の意味だ”(デサルロニカ全書5:16-18、ピル4:4)

“いつも喜びなさい。”は聖書に記録された神様のお言葉です。これは権力の以上であり命令です。神様の意味です。神様は私たちに実践ができない命令をしていないです。“これはキリストの中で君達に向けた神様の意味だ”といいました。キリストの中にいる人々はいつも喜ぶことが出来るというお話です。本文のお言葉は、二つの質問を持てるようにします。“キリストの中でいつも喜ぶことが出来る理由は何か?” “キリストの中にある聖徒でありながらいつも喜んだというお言葉どおりに行うことができない原因が何であり、その問題をどう解決するのか?” することです。まず、キリストの中でいつも喜ぶことができる理由が何かを見ます。‘キリストの内’と‘キリストの外’の差が何かがあるとその答えは確実です。イエス・キリストを信じない人々を指して‘キリストの外’にあるとしました。キリストと何の関係がないという意味です。この言葉は恐ろしいです。・キリストによっている救援に参詣しないという意味だからです。‘キリストの外’にいる人は神様の前で罪人であり、怒りがあって終局、神の審判を受けることとなります。その結果は滅亡で

あり、地獄の罰を受けます。天国に対する希望はありません。一方、‘キリストの内’にいる人の実際はどうですか?イエスが十字架を背負われず、流した貴重な疲労より罪下賜されて義人になります。義人になった人は天国に入ります。聖書に約束された7千余個の貴重な約束がキリストの中にある者たちのためのものです。イエス・キリストを信じる人は‘キリストの中で’拘束されて罪下賜されて義人になりました。新たな被造物の神様の子供に出るようになりました。天国の望みをはじめ、貴重な希望に満ちた約束を受けた者になりました。世の中で遭ういかなる苦難も神様の摂理に有益なものになるはずで、キリストの再臨時に復活して変化した体を持つようになるはずで。。だから、キリストの中にいる人はいつも喜ぶことが当たり前だ。次に、キリストの中にある省都でありながらいつも喜んだというお言葉どおりに行うことができない原因が何であり、その問題をどう解決するものなのかについて説明します。第一に、喜びを蚕食する原因を放っておかず、積極的に処理しなければなりません。失敗やミスの原因を検討した後、彼によって得た経験と教訓を鏡と警戒すると約束しなければなりません。そうすれば自責感で早く抜け出すこととなります。第二に、今日を喜び、今あることにより、喜ぶ訓練をしなければなりません。今日を楽しく暮らしていない人には楽しい明日が来ないです。今持っているものたちを喜んでしま

ない人は、より多くのことを所有することになっても楽しむことができません。失うことを考えて苦悶たりないことを考えながら、嘆きの癖を果敢に捨てなければなりません。第三に、大変でつらい目に遭ったらそのことに心を集中しない、慰めと救いの手を差し出している神様ともに考え方の方向を変えてください。ステパノ執事は福音を伝えた容疑で逮捕されて脅されました。彼は殺気立った公会員たちと群衆たちから視線を向けて胃を眺めました。そのとき神様補佐郵便にいるイエス様を見るようになりました。ステパノはその状況で喜びが充満しました。無理がステパノを見渡すと、その顔が天使と同じでした。喜ぶべき、再び喜ぶべきです、喜びの理由を再吟味していつも喜ぶべきです。私に‘キリスト・キリストの中で’いつも喜ぶことができる豊かな理由を与えていつも喜びなさいとおっしゃる極めて嬉しかった神様に賛美歌をいたします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

アメン、主イエスよ、きたりませ



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

天地創造に関して記録された創世記 1 章には人間創造に関してこんなに記録されています。**“神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、天の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものとを治めさせよう」。**神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。神は彼らを祝福して言われた、「**生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、天の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ。**”（創世記、1:26～28）神様が人を**“神様の形象とありさまどおり”**特別な存在で作りました。これは人間の全人格が神様の性分と属性の影響を受けられたことをこころざします。肉身のありさまも神様と付き合う存在としての権威と荘厳さが現われるように作られました。

創世記 2 章 7 節に記録されるのを**“主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生きた者となった。”**としました。他の被造物とは違い人間には神様が直接**“生命の呼吸”**を吹き入れました。他のすべての生物は言い付けることで作って生命体になるようにしました。人間の場合はその肉体を直接作ったし、直接に息を吹き入れることで霊的な生命体になるようにしました。この地に住んでいる人は肉体を持った霊です。霊と肉身が皆貴重だがまずで思わなければならないことは霊です。人の肉体は事故や疾病や老いによってたまらなくなります。しかしその人の霊は死なないです。肉体を去ってあのむこうの世界に行くようになります。その所は天国でなければ地獄です。人は自分が肉体を持った靈魂という事実と本質上に罪人という事実を必ず認識しなければなりません。

神様はアダムに**“「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、天の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」”**と言いました。神様は人にこの地のすべての被造物を征服して治めるようにしました。この皆を管理する権限と能力をくださいました。神様が人間に任せてくださった権限は相対的なことであるだけ絶対的なのではないです。動き手の役目をしなさいと言いつけたのです。ところで人間はサタンの誘うに落ちて神様の命令を逆って善悪を知る木の実を食べて罪を犯しました。**“善悪を知る木の実を食べるなら神様のような。”**というサタンの言葉にだまされたのです。しもべが主人になりそうと出たのです。その後アダムは罪人になったしその子孫の皆が本質上罪人で生まれるようになって神様の震怒の下にあるようになりました。神様の震怒の下にある靈魂は結局地獄の刑罰を受けるようになります。このような人間を可愛想に思いながら愛した神様が解決策をくださいました。その解決策がイエスキリストです。

このために神様のイエスキリストが罪人たちの罪を代わりに担当して十字架に釘を打たれる刑罰を受けました。そして復活して昇天なさいました。そして罪人たちに極めて恵まれて嬉しい消息が宣布されました。イエスキリストが世の中へいらっしやって私たちの罪をあがないしてくださいるので信じるすべての者が義のあるようになって永生を得て天国で住むようになったから これからはもうねがうのがないです。それなのに神様は聖徒たちのためにもっと大きな幸せと恵みを約束しました。これはイエスキリストの再臨によって聖徒たちが享受するようになる幸せと恵みです。キリストがまたいらっしやって世の中と悪魔を審判なさるでしょう。天と地に熱裂に燃える火にとけられるようになさるでしょう。それからはお嫁がそのご主人のために飾りつけたような新しいエルサレムを聖徒たちにくださるでしょう。それだけではなくキリストが再臨なさる時聖徒たちが復活して変化された身を着て神様を迎えるようになるでしょう。復活した身は強い体、病まない身、障害が生じない身、老けない身、死なない身、神霊な身です。イエス様の初臨が意味する福音を信じる人にはイエス様の再臨に対する予言は生に活気と喜びを与える要因になります。人生の道に直面するすべての難しさを乗り越える力になります。

イエスキリストの再臨は聖書に予言されているし約束されています。イエス様の再臨に関して記録された聖書の言葉の中に一部をよく見ます。予言者たちが予言した言葉があります。

“わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない。”（ダニエル書、7:13,14）と言いました。天使たちの予告した言葉があります。キリストが昇天なさる時弟子たちが詳らかに天を眺めているのに白い服装した二りの天使が彼らのそばに立って言うのを**“「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じありさまで、またおいでになるであろう。」**（使徒行伝、1:11）と言いました。

使徒たちが聖霊に感動されて予言した言葉があります。使徒パウロは言うのを

“すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。”（テサロニケ人への第一の手紙、4:16,17）と言いました。使徒ヨハネは言うのを**“またわたしに言った、「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近づいているからである。不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまみにさせよ」。**見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。”（ヨハネの黙示録、22:10～12）と言いました。

イエス様が親しくおっしゃった言葉があります。**“だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。”**（マタイによる福音書 24:42）、**“そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族はなげき、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。また、彼は大きなラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。”**（マタイによる福音書 24:30,31）。イエス様の再臨は新約聖書だけでも 300 回以上記録されています。テサロニケ人への第一、二の手紙とマタイによる福音書 24 章とマルコによる福音書 13 章はイエスキリストの再臨に対して言及しています。イエスキリストの再臨こそ新約聖書で捜して見ることが出来る一番重要な教理の中の一つと言えます。

自由主義の神学者たちはイエスキリストの人格的な再臨を否定してイエスキリストの愛と義の原理たちが社会を支配するようになることを再臨の意味と説明します。またある人々はイエスキリストの再臨は五旬節に聖霊降臨で成り立ったことだと言います。このように教えることは聖書に配置されることで自意的に解釈した誤られたのです。イエスキリストの再臨は目で見られる再臨です。**“あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じありさまで、またおいでになるであろう”**（使徒行伝、1:11）と言いました。再臨なさるイエスキリストは光栄の中に現われるはずであり、万王の王であり万主の主でいらっしやるでしょう。また万百姓を審判なさるでしょう。

しかしなによりも聖徒たちのためにまたいらっしやいます。イエスキリストの再臨でキリストにあって死んだ者等の身が復活するようになって、生きている者も身も変化されるでしょう。そして一緒に光栄の中に神様をお会いできるでしょう。そして各人が冕旒冠を受けて彼の行ったとおり賞を受けるようになるでしょう。イエスキリストの再臨と言うのはこのような内容を持っている幸せの約束でまた必ずすべての人が体験するようになる現実に現れるようになるでしょう。今日のクリスチャンだと言う人々の中にもイエスキリストの再臨に対する予言を信じないとか間違って解釈する人々がいます。こんな人々はそれによって自分が経験するようになる恐ろしい患難に対しても無知です。イエスキリストの初臨と再臨に対して分からないとか歪曲された知識を持つよりもっと有害なことではないです。

今日の本文を読んで上げることで結論を結びます。**“また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。これらのことをあかしするかたが仰せになる、「しかし、わたしはすぐに来る」。**アメン、主イエスよ、きたりませ。主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。”（ヨハネの黙示録、22:19～21）

聖徒の皆さんは世の中へいらっしやってあがないの使役を果たしたイエス様を信じて愛するだけでなく、またいらっしやるイエス様を待ちこがれてその日に経験するようになることを思うので楽しさと所望が一杯になるように願います。